二〇二三年度　樟蔭高等学校　入試解説

【一】

問一　書き問題は、ⓑのように難しいものではないが、たずねられるとすぐに思いつかないようなものや、読み問題はⓓのような、難解なものも出題した。読み書きは大学入試や就職試験でも問われ続けるので、しっかり勉強し続けよう。

問二　表現技法・修辞法を問うた。国語便覧などを用いて、高校入学後もしっかりと確認し、定着させていこう。

問三　この作品のストーリーにおいて中心となる「邦彦が走らないこと」がわかっているかを問うた。当然のことではあるが、「傘をもっていない」というような内容も書く必要がある。

問四　同じ段落にその指し示す内容が例を挙げながら具体的に書かれている。それを一般化してまとめる。

問五　後半部分で邦彦が懸念している内容が書かれており、実際に事件が起こることから想像できる。

問六　直前に答えが書いてある。

問七　いくつか前の段落から、瑠佳の結婚観が書かれている。そのことから判断する。

問八　空欄の段落とその前段落から考える。

問九　実際にはその友人を邦彦は「親切」とは考えていないことから判断する。

問十　この段落に、瑠佳が「走らないこと」にこだわる点について、邦彦がどう思い、どう考えているかが述べられている。そこから判断する。

問十一　最終場面において、瑠佳が「自分のランニングウェア」を眺めている姿が描かれている。また、冒頭と最後において、瑠佳が繰り返し「成長」に言及してることにも注目し、二つの「ランニングウェア」の意味するところを想像する。

【二】

問一　『枕草子』冒頭文で「春はあけぼのやうやう白くなり行く…」を音読した人は多いはず。ローマ字で au となる表記を現代語で読むときには「オー」となる。

問二　A「え」は英語でいうと can になり、「じ」は「次は負けじ(負けないぞ)と頑張る」のように打消し表現を表わすので、選択肢中「can not」を表わしているのはエ。B季武に「お前が負けたら何をくれるのだ」と問われた従者の返答。直後に「それもそうだな」と言われていることからウ。C一度目に射外した季武のリベンジにかける言葉。イかウなら一度目に命中していることになる。「さりとも」は前文を認めつつそうならないことを望んでいるのでア。

問三　①「引き絞って(矢を)放った」のは、ア季武、②「もう一度お射りなられてはどうか」と言ったのは、イ従者、③従者をねらったが外れてしまったのは、エ矢。

問四　季武は従者と「もし(私が矢を)射外したならば、おまえが欲しく思うようなものを、望みに従って与えよう。」と約束していた。

問五　係り結びの法則に関する問題。係り結び表現に用いられる語には「ぞ・なむ・や・か・こそ」がある。

問六　「用意」とは「注意・準備・対策」のことである。置いてある的ではなく人に対して矢を射ると、当然相手は横に避けることに注意して対策をとらなくてはならないのに、季武はそこが抜け落ちていた。

問七　ア季武には武士の意地があるから「わざと外して」いないので×、イ弓の名手は従者ではなく季武なので×、ウ「わき腹」に当たったのではなく、脇の下を矢が通過してまったく当たっていないので×、エ○、オ季武は矢を射損じたのではなく、従者に右や左に避けられたため矢が外れてしまったので×。

問八　『古今著聞集』は鎌倉時代に書かれた説話である。ア「奥の細道」は紀行文、イ「宇津保物語」は物語、ウ「今昔物語集」は平安時代の説話、エ『源氏物語』は物語、オ「古今和歌集」は勅撰和歌集である。正解はウ。

【現代語訳】

(源)頼光朝臣の家来である(下部)季武は一番の（弓の）名手であって、さげ針をも外さず射当てた者であった。上述の従者が、季武にいったことには、「(あなたは）たとえさげ針を射なさっても、この私が三段ほど離れて立っているのを、射なさることはできないだろう」といったところ、季武は、穏やかでないことをいうやつだなあと思って、反論した。(季武は)「もし射外したならば、おまえが欲しく思うようなものを、望みに従って与えよう」と決めて、「さて、おまえはどう（するの）か」というと、(従者は)「私は命を差し上げる以上は（もう十分でしょう）」というので(季武は)「それもそうだな」と思って「それならば」と言い「立て」と言うので、この男は、いったように三段離れて立った。季武は、「外すはずがない（と思う）けれども、従者一人を失ってしまうことは損であるが、(武士の）意地であるので（必ず射当てよう）」と思って、よく引き絞って（矢を）放ったところ、左の脇の下を五寸ほどそれて外れてしまったので、季武は負けて、約束通りに、さまざまのものを（従者に）与えた。(従者は)言った通りのものを与えられ受け取った。その後、（従者が）「(納得いかないのなら)もう一度お射りなられてはどうか。(結果は同じでしょうが)」と言う。(季武は)黙っていられずまた賭けをする。季武は、「はじめはどうしたことか外してしまったけれど、今度は決して射外すまい」と思って、しばらくねらいすまして、体の中央にねらいを定めて(矢を)放ったところ、右の脇の下をまた五寸ほどそれて外れてしまった。その時この男(従者)は、「だから申し上げたでございましょう、お当てになることはできないと。殿は弓の名手ではいらしゃいますが、射手としての考えが不足していらっしゃるのです。人の体は太いといっても、一尺には過ぎないのだ。それを（あなたは）真ん中をねらって射なさった。弦音を聞いて、少し横へ跳ぶと、五寸は離れるのだ。だからこのよう(な結果)であるのです。こうしたことには、その対策をお考えになったうえで矢を射なさるべきでしょう」といったので、季武は、理屈に負けて、いうことがなかった。

【三】

問一　漢字パズルの問題。①ならば「誤解」、②ならば「祝日」など、あまり熟語が無いものから考えていく。それでも思いつかない場合は、⑤にある「海女」などのような熟字訓も含めて考えてみよう。

問二　文学史の問題。作者と代表作は漢字も含めてしっかりと覚えていこう。それぞれの他の代表作としては、①は「坊っちゃん」や「三四郎」「こころ」など、②は「羅生門」や「トロッコ」「河童」など、③は「一九二八年三月一五日」、④は「在りし日の歌」、⑤は「ノルウェイの森」や「ねじまき鳥クロニクル」「海辺のカフカ」など。また、人名や作品名とともに、活動した時代の流れとともに、思潮も合わせて覚えていこう。